



# 大樹のこころ

## 100点満点の山の学習

5年生が16日(火)17日(水)の日程で、1泊2日の山の学習に行ってきました。今年の学年テーマは「One team～みんなで心を1つにつき進め～」です。どんな山の学習になったのでしょうか。

今年の5年生は、学年主任の鳥居先生を中心として、緻密な準備を進めてきました。引率の教師で出発1週間前に打ち合わせ会を行うのですが、これが実に3時間もかかりました。微に入り細に入り、様々な場面を想定しての検討。活動場面での教師の役割分担だけでなく、子供たちのアレルギー対応についても、しっかりと全員で情報を共有していきました。

その結果、素晴らしい山の学習となりました。まず感心したのが、子供たちの聴く姿勢です。先生や山の指導員さんの話をしっかりと聴くことができるので、活動でのミスがありませんでした。大樹寺小では平素の授業の中で「アイコンタクト」をして友達の話の聴くことを行っていますが、それが生きた形となりました。また家康プロジェクトと称して「挨拶」「机上無一物」「スリッパの整頓」に取り組んでいます。これがロッジの生活で成果を発揮しました。行きかう人に元気な挨拶をする姿。自然と整頓されているトイレのスリッパ。シーツ返納や布団などの整理整頓でも指導員さんから「これほどきちんとできる学校はありません」とお褒めの言葉をいただきました。

順調に進む山の生活でしたが、ハプニングもありました。1日目の炊飯活動後、片付けをしている時に水道の水が出なくなりました。洗い物ができない状態になり、急遽日程の変更を余儀なくされました。しかし子供たちは、混乱することなく変更となった活動を粛々と行っていきました。自然の家の方のご尽力により1時間程で水道が復旧。その後、時間通りに活動を進めることができました。こうした臨機応変に対応できる様子にも感心しました。

行事の時に、その学年の特性が見えてくるものですが、今回の山の学習を通して、5年生は「芯のしっかりとした子供たち」であると感じました。また「とても前向き」であるとも思いました。山の学習では、子供たちの中から不平不満が出てきたり、友達とのトラブルが起きたりするものですが、全くありませんでした。それどころか、友達と助け合う姿が数多く見られました。山の指導員さんも「落ち葉スキーで、男子が女子のスキー板を運んでいる姿を見て、感激しました」と言ってみえました。そうした言葉を聞いて、何だか誇らしい気持ちになりました。100点満点の山の学習。この1泊2日の生活を終えて、5年生の子供たちのことが、ますます好きになってしまいました。

